

【歴代須賀川市長】



初代
岡部 宗城
昭29.4.27～昭31.4.8



2代・4代
澤田 三郎
昭31.5.10～昭39.5.9
昭47.5.10～昭59.5.9



3代
鈴木 貞夫
昭39.5.10～昭47.5.9



5代
高木 博
昭59.5.10～平8.6.29



6代
相楽 新平
平8.8.11～平20.8.10

【歴代須賀川市議会正副議長】

議長

〔初代〕柳 甚四郎 〔昭29.4.3～昭30.3.30〕	〔初代〕樽 川 久松 〔昭29.4.3～昭30.3.30〕
〔2代〕佐藤 市郎 〔昭30.4.7～昭34.3.30〕	〔2代〕安 田 平七 〔昭30.4.7～昭34.3.30〕
〔3代〕羽田 徳太郎 〔昭34.4.9～昭38.3.30〕	〔3代〕鈴 木 正雄 〔昭34.4.9～昭38.3.30〕
〔4代〕三浦 一 〔昭38.5.7～昭42.3.30〕	〔4代〕橋 本 平男 〔昭38.5.7～昭42.4.29〕
〔5代〕服部 三寿 〔昭42.5.4～昭46.4.29〕	〔5代〕山 下 淡童 〔昭42.5.4～昭46.4.29〕
〔6代〕服部 三寿 〔昭46.4.30～昭50.4.29〕	〔6代〕森 下 新二 〔昭46.4.30～昭50.4.29〕
〔7代〕山下 淡童 〔昭50.5.8～昭54.4.29〕	〔7代〕遠 藤 輝雄 〔昭50.5.8～昭54.4.29〕
〔8代〕斎藤 種平 〔昭54.5.2～昭58.4.29〕	〔8代〕堀 川 正二 〔昭54.5.2～昭58.4.29〕
〔9代〕斎藤 明 〔昭58.5.6～昭62.4.29〕	〔9代〕有 馬 博 〔昭58.5.6～昭62.4.29〕
〔10代〕斎藤 明 〔昭62.5.8～平1.3.20〕	〔10代〕深 谷 一由 〔昭62.5.8～平1.3.20〕
〔11代〕森 新二 〔平1.3.20～平3.4.29〕	〔11代〕阿 部 勝人 〔平1.3.20～平3.4.29〕
〔12代〕森 新二 〔平3.5.9～平5.5.17〕	〔12代〕阿 部 和寿 〔平3.5.9～平5.5.17〕
〔13代〕深 谷 一由 〔平5.5.17～平7.4.29〕	〔13代〕岡 谷 久則 〔平5.5.17～平7.4.29〕
〔14代〕西間木 寅吉 〔平7.5.10～平9.5.9〕	〔14代〕関 根 吉郎 〔平7.5.10～平9.5.9〕
〔15代〕添田 勝人 〔平9.5.9～平11.4.29〕	〔15代〕宗 形 充三 〔平9.5.9～平11.4.29〕
〔16代〕添田 勝人 〔平11.5.12～平13.5.14〕	〔16代〕宗 形 充三 〔平11.5.12～平13.5.14〕
〔17代〕高橋 秀勝 〔平13.5.14～平15.4.29〕	〔17代〕水 野 敏夫 〔平13.5.14～平15.4.29〕
〔18代〕高橋 秀勝 〔平15.5.12～平17.4.11〕	〔18代〕水 野 敏夫 〔平15.5.12～平17.4.11〕
〔19代〕高橋 秀勝 〔平17.4.11～平19.4.29〕	〔19代〕水 野 敏夫 〔平17.4.11～平19.4.29〕
〔20代〕大越 彰 〔平19.5.11～平21.5.12〕	〔20代〕菊 地 忠男 〔平19.5.11～平21.5.12〕
〔21代〕渡辺 忠次 〔平21.5.12～平23.9.3〕	〔21代〕村 山 廣嗣 〔平21.5.12～平23.9.3〕
〔22代〕鈴木 忠夫 〔平23.9.13～平25.9.5〕	〔22代〕森 新男 〔平23.9.13～平25.9.5〕
〔23代〕市村 喜雄 〔平25.9.5～平27.9.3〕	〔23代〕鈴 木 正勝 〔平25.9.5～平27.9.3〕
〔24代〕広瀬 吉彦 〔平27.9.15～平29.9.4〕	〔24代〕五十嵐 伸 〔平27.9.15～平29.9.4〕
〔25代〕佐藤 瞭二 〔平29.9.4～平1.9.3〕	〔25代〕大 倉 雅志 〔平29.9.4～平1.9.3〕
〔26代〕五十嵐 伸 〔平1.9.12～平3.9.6〕	〔26代〕安 藤 聡 〔平1.9.12～平3.9.6〕
〔27代〕五十嵐 伸 〔平3.9.6～平5.9.3〕	〔27代〕安 藤 聡 〔平3.9.6～平5.9.3〕
〔28代〕大寺 正晃 〔平5.9.14～〕	〔28代〕溝 井 光夫 〔平5.9.14～〕

副議長

「共につくる 住み続けたいまちすかがわ」を目指して

須賀川市長 橋本克也



昭和29年に岩瀬郡須賀川町、浜田村、西袋村、稲田村と石川郡小塩江村の1町4カ村が合併し、市制がスタートしました。その翌年には岩瀬郡仁井田村が、昭和42年には石川郡大東村がそれぞれ合併し、市域が拡大しました。また、平成17年には、岩瀬郡長沼町、岩瀬村が合併し、現在の須賀川市が形成され、本年3月31日をもって市制施行70周年を迎えることとなりました。

市の歴史は古く、乙字ヶ滝遺跡から出土した旧石器は、はるか古からこの地が要衝として栄えていた証であり、鎌倉時代以降は城下町として、また、江戸時代は奥州街道屈指の宿場町として栄え、赤子養育事業等の町人による先進的な自治が行われるなど、自治によるまちづくりによって発展してまいりました。

先人たちが築きあげてきた礎は、本市にとってかけがえのない財産であり、市民の皆様が須賀川に抱く愛着や誇りとなって現代に受け継がれています。この「市民自治の精神」や「ふるさと須賀川への思い」を未来へと大きく育み、新たな須賀川へ紡いでいきます。

これまでの10年を振り返りますと、この期間は、平成23年に発生した東日本大震災から今まさに復旧・復興の期間であり、それに加えて、令和元年東日本台風や福島県沖地震、さらには、新型コロナウイルス感染症への対応など、本市にとって70年の歴史の中でも多くの困難に立ち向かった時期でありました。

震災などで培われた市民力や地域力をはじめ、多くの方々からのご支援、ご協力などに支えられながら、多くの困難を乗り越え、特に、復興のシンボルとして新庁舎の開庁や、市民文化復興のシンボルとしての市民交流センターのオープンなど、震災からの創造的復興を目指した様々な事業が目に見える形で進んでまいりました。

現在、創造的復興からの「次の10年」という新たなステージに歩みを進めており、時代の潮流に合わせたSDGsや公民連携をはじめ、防災・減災対策などの各種施策に全力で取り組みながら、第9次総合計画「須賀川市まちづくりビジョン2023」の将来都市像である「共につくる 住み続けたいまち すかがわ」を目指しています。

今回、先人たちが英知や情熱を結集し、脈々と築いてきた尊い歩みを振り返るとともに、未来への道標として記念誌を発行いたしました。本市の発展にご尽力いただきました皆様に、改めて敬意を表するとともに、今後とも引き続き、市勢伸展のためにご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和6(2024)年3月



表紙コンセプト

一般的な記念誌のイメージを払拭し、市民の皆さんが気軽に手に取って読んでもらえるようにフリーペーパー風の軽快なデザインとしました。須賀川市の歳時記、観光などをモチーフに、それらが市民と手を携え、輪になっている様子をオリジナルイラストで表現。カラーリングは青色と黄色の2色を用い、市民の皆さんにとって親和性のあるものとししました。

須賀川市制施行70周年記念誌

発行日

令和6年3月28日

編集

福島県須賀川市

〒962-8601 福島県須賀川市八幡町135番地

電話 0248-75-1111(代)

印刷

トキワ印刷株式会社